

令和5年度 南河内病院連絡会結果（概要）

＜① 藤井寺保健所開催＞

開催日時：12月5日（火） 場所：藤井寺保健所 2階 講堂

1 地域医療構想の推進に関する意見

特になし

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

(1) 公立・公的病院

特になし

(2) その他、民間病院等

● 松原徳洲会病院

（病院への意見）

- ・再編統合による回復期病床の高度急性期病床への転換は疑念が残る。
- ・救急は医師の確保も困難であり、救急対応可能な病院は限られる。地域で救急を担う松原徳洲会病院の急性期病床の病床稼働率が常に90%を超えているという現状や救急搬送された患者のうち入院できるのは約20%という現状は非常に問題だと感じている。救急対応可能な病院が救急対応を行い、他の病院がバックアップするという体制は一つの方法だと考える。

※病院連絡会后、松原徳洲会病院より、修正した病院プランの提出あり。

2025年に向けた病床機能

（修正前）高度急性期 249床

（修正後）高度急性期 176床 急性期 73床

3 その他意見

【転退院調整を円滑に進める取り組みについて】

- 今年度から病院や介護施設との連携のための会議を開催している。円滑な療養型病院への転院や介護施設への入所には、病病連携以外にも病介連携が大切。
- シームレスに患者の退棟を進めるためには、入院時から患者の退院後の行先（自宅、療養型病院、介護施設等）をカンファレンスで話し合うことが重要。介護との連携について、関係機関で検討することも必要。
- 急変時に救急搬送された際、心肺蘇生するのが心苦しい患者も多い。そのような状況に至るまでにACPについて話し合いや方針の明確化が必要。
- 外科系の病院の入院期間は短期間であり、退院時、回復期リハビリ病院等に転院しているが、連携上の課題はなく、円滑に受け入れてもらうことができている。

【大阪はびきの医療センターにおける政策医療にかかる意見】

※病院連絡会開催後ご意見受付シートより

- 地域医療支援病院として救急医療の充実のために整形外科を新設することは一定の理解ができるが、新設された整形外科にて公的資金で手術支援ロボットを購入し、待機手術である人工関節置換術を積極的に行う姿勢には疑問を呈する。公的病院は繰入金があり、政策医療を担うことに重点を置くべきであるため、地域にて十分資源がある分野に参入することは納得できない。

<② 富田林保健所開催>

開催日時：12月13日 場所：富田林保健所 2階 講堂

1 地域医療構想の推進に関する意見

- 2013年の古い推計値をもとに急性期や高度急性期の病床を回復期病床へ転換しても良いのか。
- 近畿大学病院が堺市に移転した後に、急性期や高度急性期が足りなくなるという懸念があるため、近畿大学病院の移転を踏まえたデータをもとに、病床数を推計する必要があるのではないかと。
- 近畿大学病院移転後の後継病院における病床機能を回復期にすると、近畿大学病院移転後に急性期病床が不足していたことが判明した際、打つ手がなくなるのではないかと。

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

(3) 公立・公的病院

- 特になし

(4) その他、民間病院等

- 特になし

3 その他

【転退院調整を円滑に進める取組や課題について】

- 転院する病院間において、地域連携室を通じてお互いに密に連携すれば、また、各病院の特徴を生かし、地域連携パスなどの作成を通じて顔が見えるかたちで連携すれば、転退院調整がスムーズにいくのではないかと。
- 自院の診療科にない患者を受け入れる場合、院内のスタッフが戸惑うことがある。転院する病院間において、お互いのベッド数、患者受入体制等をタイムリーに把握することができれば、転退院調整がスムーズにできるのではないかと。
- 精神疾患のある患者の転院や自宅への退院が難しく、精神疾患のある患者で、身体症状がある場合は、救急も含めて受入れが難しい状況となっている。
- 大阪府には、夜間・休日精神科合併症システムがあり、ナビダイヤルで、身体合併症のある精神疾患のある患者の医療相談や転院について病院が輪番制で対応している。また、当病院（精神科病院）では、薬物による未遂患者など精神疾患のある患者対応が可能であるので、困った時は連絡して欲しい。